

平成23年度宮古市立第一中学校 学校公開 社会 指導案

<p><b>【自己課題】</b> 単位時間内に基礎・基本の定着を図る時間を確保し、生徒が疑問を持ったり興味や関心を抱いたりするような資料の活用によって、生徒が主体的に学習活動できるような授業展開を図る。</p>			
1. 実施日	11月11日(金)	2. 授業者・学級	城内 玲 1年3組 男子16名 女子16名 計32名
3. 教科名	社会	4. 単元名	第2章古代までの日本 第2節古代国家の歩みと東アジア世界 5 「平安京と摂関政治」
5. 単元の目標	大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して理解させる。		
6. 単元の評価規準	<p><b>【社会的事象への関心・意欲・態度】</b> 律令国家の確立と天皇や貴族の政治の展開、国際的な要素を持った文化と文化の国風化など、古代までの歴史的な事象に対する関心を高め、意欲的に追求し、古代までの特色をとらえようとするとともに、古代までの文化遺産を尊重しようとする。</p> <p><b>【社会的な思考・判断・表現】</b> 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などについて多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、仏教伝来の影響、仮名文字の成立について多面的・多角的に表現している。</p> <p><b>【資料活用の技能】</b> 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめるとともに、仏教伝来とその影響、仮名文字の成立などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p><b>【社会的な事象についての知識・理解】</b> 大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したこと、国際的な要素を持った文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解し、その知識を身に付けている。</p>		
7. 単元の指導計画 (全7時間)	<p><b>【第1時】</b> 聖徳太子の政治や大化の改新の過程について、東アジアの情勢とかかわらせて理解する。</p> <p><b>【第2時】</b> 律令制定の意義と律令制度の内容を通して古代国家の仕組みを理解する。</p> <p><b>【第3時】</b> 班田収授法についてまとめ、奈良時代の人々の生活の実態を理解する。</p> <p><b>【第4時】</b> 関心ある仏像や寺院について調べ、飛鳥文化・天平文化の特色を理解する。</p> <p><b>【第5時】</b> 平安京への遷都のねらいと、東北地方の蝦夷の抵抗について理解する。</p> <p><b>【第6時】</b> 摂関政治について調べ、藤原氏が摂政や関白の地位を独占できた理由を考える。(本時)</p> <p><b>【第7時】</b> 唐から伝わった新しい仏教や国風化した文化の特色を理解する。</p>		
8. 本時の指導目標	<p>☆「藤原氏の系図・他氏の排斥・収入」の資料から、藤原氏が役職を独占できたことを読み取り、独占の理由をまとめることができる。(社会的な思考・判断・表現)</p> <p>☆貴族の政治について理解することができる。(社会的な事象についての知識・理解)</p>		
9. 本時と「自己課題」とのかかり	<p>(1) 課題設定の理由(生徒の実態)</p> <p>○生徒は、定期テストでは平均7割ぐらいの正答率があるが、実力テストになると5割程度の正答率となってしまうことが多い。これは、基礎・基本がしっかりと定着していないためと考えられる。実力テストでも平均7割ぐらいの正答率にするには、基礎・基本の定着のための時間の確保が必要となってくると考えている。</p> <p>○社会科についてのアンケートを1学期に取ったところ、地理は好きだけど歴史は苦手という生徒が3分の1程度いた。その要因として、歴史は年号とか人の名前、出来事をたくさん暗記しなければならないという意識が強いためと考えられる。そのような意識を取り除くために、生徒が疑問を持ったり、興味や関心を抱いたりするような資料を活用して、生徒にとって楽しい授業を展開していく必要があると考えている。</p> <p>(2) 指導の工夫・改善</p> <p>○家庭学習を週末課題にすることにより、ある程度は家庭学習の習慣が身についてきているが、基礎・基本の定着までには至っていないと思われる。そこで、単位時間内で、前時の基礎・基本事項のテストを行うことにより生徒も大事どころの確認ができるとともに、基礎・基本の定着を図っていききたい。</p> <p>○生徒が、疑問に思ったり、興味や関心を抱いたりするような資料を使い、生徒にとって主体的に学習活動ができる授業の展開を図っていききたい。</p>		

<b>10. 授業を 観る視点</b>	◎導入の段階で提示した資料が、生徒にとって疑問を抱くような資料であったか。(生徒個々の関心・意欲を評価する場面) ◎まとめの段階で、生徒がさまざまな資料から、天皇に代わって藤原氏が政治の実権を握った理由を説明することができたか。(生徒個々の思考・判断・表現を確かめる場面)
-------------------------	---

### 11. 本時の指導計画

段階	学習活動	指導上の留意点(・) 評価規準(☆) 自己課題・授業を観る視点(◎)
導入  基礎・基本の定着と学習課題の把握  (15分)	1 前時の復習(小テスト) 2 学習課題につながる問題提示 (1) 「望月の歌」が誰の歌かを確認する。 (2) 藤原道長の時代の朝廷と現代の内閣の資料を比較する。 3 学習課題の設定 藤原氏はなぜ、朝廷の役職を独占できたのか。	・生徒に○付けさせた後、自己評価シートに記入させる。 ・道長の「望月の歌」は紙板書で提示する。 ・小学校での学習を想起させ生徒の興味・関心を高め、予想につなげる。 ・道長時代の朝廷の役職と現代の内閣の資料は実物投影機で提示する。 ・資料の比較により、藤原氏の役職独占に気付かせ、疑問を抱かせる。 ◎生徒が疑問を抱く資料であったか。
展開  学習課題の予想と検証  (25分)	4 学習課題の予想 (1) 学習課題の予想を立てる。 ・自分の予想をまとめる。 5 課題の検証 (1) 藤原氏の系図を調べる。 ・藤原氏の系図から、藤原氏の娘が天皇の後になっていること、娘の子供が天皇になっていることを読み取る。 (2) 菅原道真の資料を調べる。 ・道真の左遷が、藤原氏によるものであることを予想する。 (3) 藤原氏の収入についての資料を調べる。 ・藤原氏の収入が多いことを読み取る。 (4) 藤原氏の政治についてまとめる。 ・藤原氏の行った政治を摂関政治ということを理解する。 ・地方政治は国司に任せたことを理解する。	・自分なりの予想を立てられない生徒には、机間巡視をして藤原氏と天皇の関係を想起するような支援をする。 ・資料を読み取れない生徒については、机間巡視により天皇と藤原氏の血縁関係に視点をおくように指示する。 ・菅原道真を大宰府に左遷した人物が、藤原氏であることを想起させる。 ・資料を読み取れない生徒に対しては、藤原氏の収入の多さについて気付くような支援をする。 ・藤原氏が行った政治について、学習プリントに記述しているかを確認する。 ☆藤原氏の政治について理解することができる。(社会事象についての知識・理解)
まとめ  学習課題のまとめ  (10分)	6 学習課題のまとめ (1) 学習活動を通して課題をまとめる。 ・本時の学習内容をふまえた学習課題のまとめをする。 ・隣同士で話し合い、交流する。  (2) 次時の予告を聞く。	◎ペアでの話し合いや本時全体の学習を通して学習課題についてのまとめを自分の言葉で記述できたか。 ・まとめができない生徒に対して机間巡視で、ポイントになる言葉を提示して支援する。 ☆「藤原氏の系図・他氏の排斥・収入」の資料から、藤原氏が役職を独占できたことを読み取り、独占の理由をまとめることができる。(社会的な思考・判断・表現)